

2018年（平成30年）3月20日

大阪城トライアスロン大会実行委員会
委員長 難波 勉 様

大阪城トライアスロン大会コース安全検証委員会
委員長 田島 良輝

大会コース及び大会運営に係る安全性に関する技術的条件について
（答申）

2018年（平成30年）3月5日付けで諮問を受けました標記につきまして、慎重に検討を行った結果、別記のとおり答申します。

別 記

I はじめに

大阪城トライアスロン大会実行委員会（以下「実行委員会」という。）は、大阪城トライアスロン 2018 大会（以下「大会」という。）の開催に際し、より安全なバイクコースの設定及び安全対策を講ずるため、コース及び大会運営に係る安全性に関する技術的条件について、大阪城トライアスロン大会コース安全検証委員会（以下「委員会」という。）に対し、2018 年（平成 30 年）3 月 5 日付けで、大会の安全対策等に関する諮問を行った。

当委員会では、実行委員会からの諮問を受け、昨年の大会コース及び安全対策等、公園内コースにおいてスリップによる落車が多発し 3 名の選手が骨折により救急搬送されたことの検証結果、2018 大会コース案（図 1 参照。以下「本コース案」という。）等について、大会技術代表及び大会事務局から説明を受け、その後、本コース案の現地を調査し、大会競技関係者の基本的な考え方を聴取するなど、様々な観点から慎重に検討を行った。なお、検証日は、降雨により路面は濡れており、2017 大会時と同じ状況の中、現場を検証できたことは有効であった。

当委員会は、2018 大会の競技コースの設定及び大会運営の立案にあたり、付帯意見を添え、答申とする。

II 検討経過等

開催日時：平成 30 年 3 月 5 日（月）13：00～16：00

開催場所：大阪城パークセンター会議室及び大会コース

出席者：

【委員】

田島良輝（学識経験者）委員長

溝端祐一（トップエイジ選手：トライアスリート／元ロード選手）副委員長

山本良介（エリート選手：トライアスリート／オリンピック）

南 修二（ビギナーエイジ選手：トライアスリート）

【関係者（設置要綱第 5 条第 3 項）】

大阪市建設局大阪城公園事務所：上野所長、塩谷担当係長

Ⅲ 要請事項等

当委員会としては、今後、大会の開催を進めるにあたり、委員会審議の中で出された意見や選手から寄せられた意見を踏まえ、以下の点について十分に留意するよう、実行委員会に強く要請する。

1. 大会コース及び会場設営について

バイクコースの選択肢としては、林道を走行する案（2017 と同じコース）と林道を避けた本コース案の2つがあることを理解した。

昨年度のコースは、①林道内での追い越しによるカーブ地点での転倒 ②林道出口付近の狭い走路から広い走路へ向かうカーブ地点での転倒が多数を占めた。また、林道内の明るさ（レース当日は緑が生い茂り視察時点の3月よりも暗くなる）や、“コケ”によって滑りやすい走路になることも指摘された。

以上が原因となる転倒事故の数を限りなく少なくするために、林道を避ける本コース案が提案された。林道コースで指摘された原因が除去されるため、本コース案は転倒事故の数が減少することが予想される。ただし、林道を迂回する合流地点（図2参照）が3車線の合流・対面となることが大きな事故を引き起こす要因になることが危惧、指摘された。

そこで、本委員会では、バイク転倒事故の数の減少と大事故を発生させないという両面を鑑み、本コース案の採用を提案し、3車線の対面部分について（大事故を防ぐため）以下のような安全対策を行うことを要請する。

- ① 合流・対面で発生しうる大事故のリスクを軽減するため、3車線コースでは、「速度制限」・「追越し禁止」の措置をとること。
- ② 3車線コースは、各車線のコース幅を柵やパイロン（コーン）で区切り、安全に走行ができるまで、車線規制区間の距離を十分にとること。
- ③ コーナーでの転倒原因は無理な追越しが原因であることから、コーナーの幅を絞り減速走行の対策を取ること。
- ④ 公道への出口（図1 **A** ポイント）及び3車線コース（図2）の路面舗装の改修並びに全コースにおいて路面段差の補整に努めること。
- ⑤ 審判員の口頭注意喚起の徹底を図るとともに、視覚による案内が有効であることから、カーブ表示、減速指示等大きくわかりやすい危険告知看板を設置すること。
- ⑥ 公園内清掃について、特に大会コース上となる箇所に重点を置き実施すること。また、雨水排水口のつまりの改善に努めること。

2. 大会運営について

(1) 選手への事前情報提供について

- ① 危険箇所について、大会ホームページ、SNS、選手のしおり等で映像や写真による選手への事前情報提供の強化を図ること。
- ② 競技説明会において、危険箇所についての注意喚起の強化を図り、減速区間及び追い越し禁止区間の周知を徹底すること。また、雨天時には路面が滑りやすくなるため、バイクでのスリップには十分に注意するよう強調して説明すること。
- ③ スイム競技中の死亡事故を防ぐため、堤に沿って足場となる箇所で休憩できることの情報を提供すること、及びスイムに不安のある選手に対する目印の風船着用や途中リタイヤ等の案内は有効であることから今後も継続すること。

(2) 運営スタッフについて

- ① 審判員においては、転倒の軽減やコース上でのスムーズな誘導管理等を実現させるため重点ポイントには経験豊かな人材を確保すること。
- ② ボランティアスタッフについても、重要ポイントには経験豊かな人材を確保し、必要な人数を配置すること。
- ③ 審判員とボランティアスタッフの指揮系統を整理し機能させること。

(3) 観客・公園利用者への誘導案内について

- ① 観戦者及び公園利用者の横断ポイントや誘導・案内等におけるスタッフへの周知と指揮系統を整えること。
- ② 最寄駅から大阪城天守閣、大阪城ホール、太陽の広場、J0 テラス、大阪ビジネスパーク等の施設への動線を確保し、スタッフによる誘導・案内、チラシ配布、看板設置により周知の徹底を行うこと。
- ③ 森ノ宮駅から大阪城公園駅方面への進路はJR環状線沿いの歩道を通行するよう、スタッフによる誘導・案内、チラシ配布、看板設置により周知の徹底を行うこと。

(4) 緊急時の対応について

- ① 医師、看護師等の救護スタッフの充実を図ること。
- ② 所轄消防署救急担当との連携の強化及び救急搬送をスムーズに行うため、後方支援病院の確保を図ること。



IV おわりに

本大会は、大阪の都心での開催及び大阪城の濠がスイム会場ということで注目を集め、約 1,700 名のエントリー、当日参加者約 850 名、また、多数の観客及び多くのメディア露出など、本大会に対する選手及び市民の関心の高さを改めて実感したところである。

当委員会としては、大会コース及び大会運営に係る安全性に関する専門的な観点から検討を加えてきたが、具体的なコース設定及び大会運営の決定はこれからである。

実行委員会においては、コース設定及び大会運営の立案に向けては、本答申に示した要請事項等を尊重し、選手、市民等からの意見に対し十分に耳を傾けながらコース設定及び大会運営の立案を進めるよう改めて要請するとともに、選手、観客、一般公園利用者等への「きめ細かな」対応を行うことにより、すべての方が安心して、楽しめ、満足していただける大会を目指し、広く市民から愛される大会となることを心から念願するものである。